



SINISTER REGION



∴シニスター・リージョン∴

朽techS - 2023

Mature Content





SINISTER REGION



血鳥の尖刺
殺騎士の歩
鳩血蘭
定命性の悪魔



再建された迎撃者
星匿蛾
ラ・トーメンタ
禁欲者の雀躍



デラモルテの多重花嫁
聖致命女
黒い膚の非常な夜明け
怨の絢爛



イモータル・スワン・リミテッド
メリサンドの裔
突撃する紫苑
疾駆する閃叫者
愛の獵犬
バイブル・ブラック・バード

わたしたちの戦いの大きさ、それは唯の夢の如し

—Portishead 「Only You」

We'll see how brave you are.

◇ シニスター・リージョン ◇



necrotech archive 2023



L'INDEX

アウトロが終わると……なんでしたかね。まあいいか、ともかく、何かが終わるとき、必ずどこかでまた何かが始まると思いませんか？ただ、「この終わり」に対応して始まった何かは、すぐに分かることは稀で。

多くの場合、末端と端緒を繋ぐ糸は、距離を取って振り返らなければ見えない。

そういう意味で、アルテンアキタ紛争と第二次アルテンアキタ紛争は明らかに断絶していました。第二次アルテンアキタ紛争は、たまたま直前の紛争をきっかけとして起こっただけであって、連続して起こったにも関わらず非連続な、独立した反乱 (*insurgency*) でした。つまり、ずっと遠く、わたし達の知らないどこかの終わりから繋がっていたということです。

あれは言わば出来事の狭間に勝手に挿入された架空のひと月だったのです。

森の焼け跡に芽吹いたあるべきでない植物、戦と回復の間に、

不正に歴史上の時空間を占有したスペクター・ウォー。

それ自体がまぼろしで、実体もないのに火と血を咲かせました、

まさしく、彼らが標榜した“上古アクィタニア民族”がまやかしであったように。

——〈骸闕〉実地試験管理者、ママ・ブラックバード“鴉の母”リェンノン・スクナ



はい、アバパティ会長が亡くなる前から肝入りで開発が進んでいたシリーズです、ISLと合わせて運用します。
テストできる環境があるのはありがたいですが、複雑ですよ。あっちには私の「センバイ」もありますし。

——マニー・ドレガツキ、ダスクポイント社 開発主任・真円監査軍に出向





定命性の悪魔 - Mortality Devil

再三言わしてもらいますが我々は関与してませんよ。前は確かに
“元大使”が馬鹿な真似をしてかきましたが、今回はありません。
あの痴れ者……オッセ・デワノツェクのせいで貨物船が止まって
損害だって出ている。とはいえ解決に奔走するのは……
出しゃばりのガイバツだの真田だのであって我々じゃない。
そうあるべきでしょう。
——フォルミスの特使、“赤龍”ケデレムレフ・クルグス





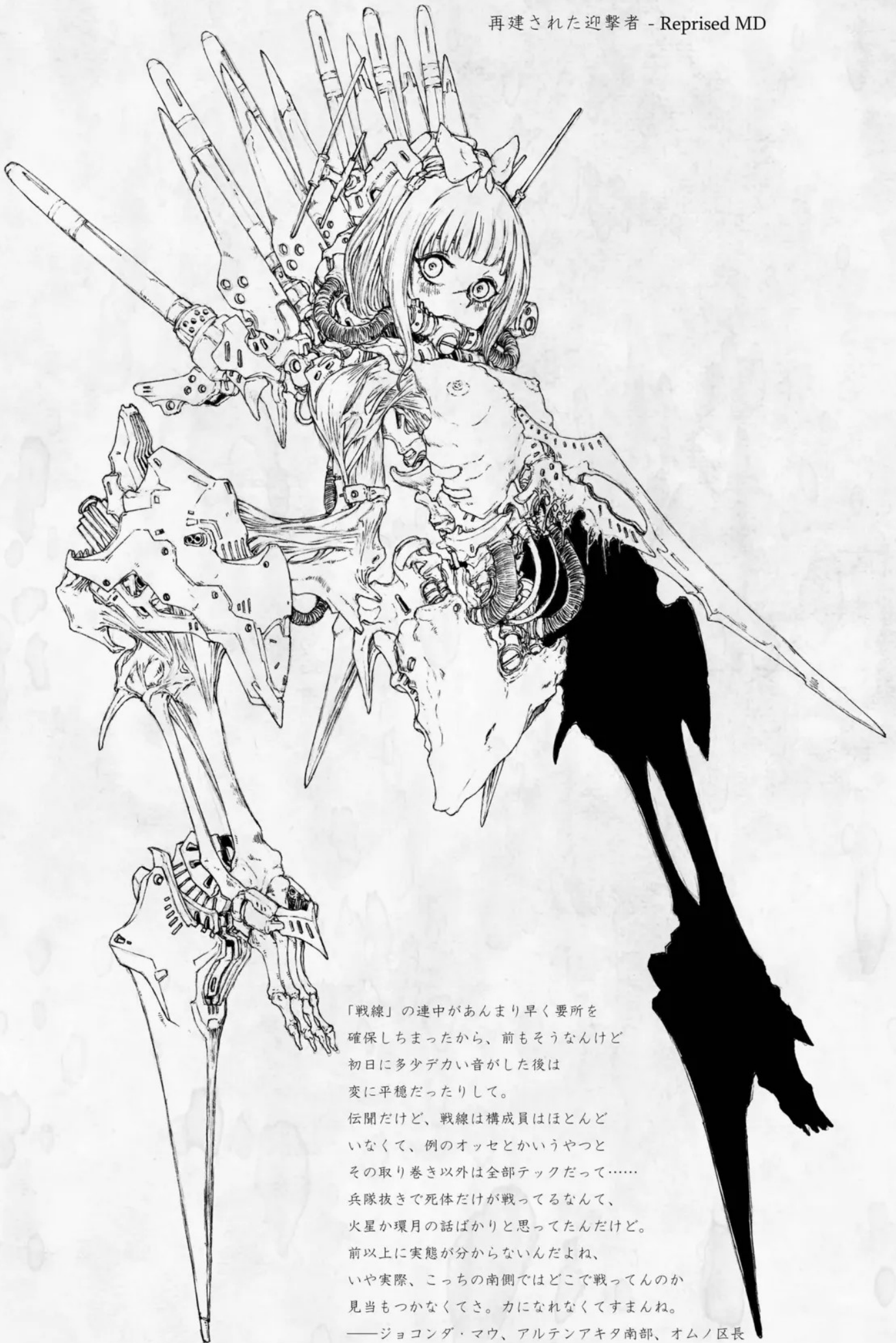
LE MAJEURL

地球に降りるのにどれだけ苦労したか……という話には興味ないでしょ。
まああんたが言ってた通り、重力適応訓練より常在菌の入れ替えが特にキツかった。

とりあえず、うちの軌道祭の連休をぶっ潰してくれた第二次アルテンアキタ紛争の話。
急に生えてきた「上古アクィタニア民族復興戦線」にネクロテックを提供してるのは、
〈骸闕〉とメルヴォワン&コールマン社、他にもいるかもだけどそれは問題にならない。

前の紛争じゃ殊勝な真似もしてたって話だけど、結局は物足りなかったってことね。
早々にそこまでデカイ衝突もなくみんな撤退しちゃったからって、テスト環境の
おかわりをお膳立てした。少なくともこっちでは状況をそう理解してる。
本来それを止めに入るべきパーズも真円も今度は乗っかる気であるのが解せなかったけど、
今回はあちこちに新型がいる。良くない時期に良くない空隙があってしまった。
……あんな理由で人死になんか出たら堪らないでしょう、そのために来たの。
今回はリリウム・アルゲントゥムは100パー善意よ、というか善意というものを
人工知能群が持っていることをアピールするためにやってるってこと。

——L&K シンジケート連絡員、イ・デйна・ウブリエル



「戦線」の連中があんまり早く要所を確保しちゃったから、前もそうなんけど初日に多少デカイ音がした後は変に平穏だったりして。

伝聞だけど、戦線は構成員はほとんどいなくて、例のオッセとかいうやつとその取り巻き以外は全部テックだって……

兵隊抜きで死体だけが戦ってるなんて、火星か環月の話ばかりと思ってたんだけど。

前以上に実態が分からないんだよね、いや実際、こっちの南側ではどこで戦ってるのか見当もつかなくてさ。カになれなくてすまんね。

——ジョコンダ・マウ、アルテンアキタ南部、オムノ区長









L'ANNULAIRE

少なくとも俺は信じたことはない。オッセは子供時代からの知り合いで。いやつまり、さっきも言ったけど友達だったってことで。あいつが前の紛争でおかしくなったのかって？それは違う。バーズの内地に進学して戻ってきたときにはもうああだったから、10年以上前からだな。

手元に文献がある、考古学的にも証拠があるんだって言うんだけど俺は聞き流してた。いや、普通にだよ。普通にちょくちょく顔合わしてて普通に流してた。

学問の世界のことは知らんけど、普通に考えておかしいだろ？

ここは独立した飛び地だった訳じゃない、漿の先遣隊に発見されて安定を確認されて、バーズ本土やらどこやらなにやらから人が入ってくるまで誰もいなかった。

理屈で言えば、別に上古アキタニアびとってやつがいたってそれは構わない。

でもいたとして、それが俺らと関係あるのか？

何か意味のあるつながりがあるのか？

あいつについてったやつら、俺は全然知らないやつらだったが、正直信じられんよ。











L'AURICULAIRE

バイブル・ブラック・バードがリェンノンせんば……リェンノン博士のプロジェクトなのは分かってたので、元々気が重かったんですよ。対抗心だってありましたけど、直接はぶつかりたくなかった。だからこんなことになったのは……いや分かってますよ自分のせいじゃないのは。デワノツェクも生きて確保されたんだし作戦としては大成功です、スワンとそれに従う鳥たちのデータも取れて。

真円側の突入チームのスマート榴弾がやったことなのはわかってますけど、例のBBBの遠隔運用がああいう車両でやってるのを分かってたら。昨日の今日でもまだ混乱していて。研究室時代に借りて返してないのを忘れてた本があって。いや本当すいません。

——マニー・ドレガツキ、ダスクポイント社I.S.L. チーム主任













ベソ・デ・プラタ経由で頼まれたから来てみたらまあとっ散らかってて。
いい加減クラリモンドもデラモルテも、共和国時代の責任に立ち返って
ネクロテック拡散の負の側面について胸に手を当てて考えるべきじゃないか？
……片方はとっくに心臓が止まってて、もう片方は心臓なんかいらぬ体にな
ってるな。とにかくだ。

ものが広まって続いて行けば、結局人間から矛盾の色が着くもので、今回は
死体を使って死体を減らす努力をする羽目になった。

まあ俺はデラモルテと違ってぜんぶ肯定するのが役目だから良いんだけどさ。

——マスター・ネクロテックの僭称者、フランシス・デラモア



LE POUCE

横転した時はこれは死んだと思ったけど、寄せ集めの連中が引っ張り出してきて助かった訳です。すぐどっか行っちゃったからハッキリとは分からなかったけど、あれシルバータイプよね。ああ、つまり、冥王星系の。

直接手を出したのがバレるとマズいんでしょうね。

それであー、ブラックウェルさん。いや、ハンナの方が良い？

これで話は終わり。

上の命令でばっちり乗っかっておいてなんだけど、馬鹿馬鹿しい争いね。

さらっとしか見てないけどこれはこれで良い土地だと思いました、

これっきりにするべきですね。

ああ、マニーにも話を聞いたんですね？

あっちにいるのは最初から知ってたんですけど、ここらでもう少し

腹が据わってくれないと。生きてるって言わないといてもらえます？

頃合いを見て自分で連絡しますから。

——リァンノン・スクナ（療養中）

白と黒、昼と夜のはざまで
黒い夜が唯一の道に思えた
なればこそ、わたしは踊った

—Prince, Anna Stasia

紙媒体で、会場に来て。というのがあまりにもお久しぶりになってしまいました。
皆様お元気でしたでしょうか。2020年から描き溜めに溜めたやつらの放出という
興味が強く、オリジナルアルバムよりはシングル集な感じの本になってしまいましたが、
十年以上やってればそんなこともあるでしょう。そうです、昨年ネクロテックは十周年を
迎えておりました。十周年のタイミングで本が出せれば一番良かったのですが、様々な事情で
そうもいかず……皆様もこの数年は様々な事情がおりだったかと思います。
少なくとも私は変わらずこうして秋田県で屍体溶接をやっていますので。

本がなかなか出なかったのは、疫病の流行以上に、キナ臭いを通り越して世界中に火と血の
匂いが立ち込めている情勢のせいというのもありました、サイドテキスト関連で。
正直今でも出すことに躊躇いは無くはないのですが、あまり長く溜めすぎると腐るとい
心配もあり、今ここにこの本があります。ともかく、お読みいただきありがとうございます。

またお会いできることを願っています。続ける限り、終わることなどないです。
左手のくに、左手の軍勢より、言葉にできない生きること（死にゆくこと）の味と共に。
メグリム・ハルヨ

Special Thanks : FANBOX 支援者の皆様、妻、それから今はもういないけものたちへ

『シニスター・リージョン』
2023/12/3 COMITIA146 にて発行
作者：メグリム・ハルヨ

サークル：朽techS

▽連絡先▽

haruyoi@hotmail.co.jp

X(twitter):megrim_haruyo

印刷所：ねこのしっぽ（有）



※過去作アーカイブス電子版はこちら <https://deadwelders.booth.pm/items/151352>

<https://deadwelders.booth.pm/items/759437>



Artch

